

学校給食について



井上 芳弘 議員
(日本共産党)

問 給食を通じて食に関わるといふ意味で、教育委員会の責任はとても重い。改めてどのように食育に取り組んでいるのか。

答 令和3年度は、農政課との連携をより密にして生産農家を一緒に訪問して取材したり、毎月の給食献立会では地元産野菜の積極的な活用について栄養教諭と話し合っています。将来子供たちが自分の食べる物に対して興味関心を持ち、より安全で体にも環境にも良い、身近で採れた旬の物

等、自分で判断して選ぶ力を育てたいと考えます。

問 安全な地元産食材を給食に提供する具体的な取組は。

答 なるべく食品添加物を使わない食品、農薬や化学肥料を使わずに育てているものを購入し、安心して食べることができるように取り組んでいます。生産農家で数の確保が難しい場合は愛菜館等で購入しています。

問 給食費の無償化は、財政的な支援があれば、給食を充実させていく取組の意味でも大切と思うが。

答 教育委員会として、公会計化による保護者負担の軽減を第一に考えています。公会計化の費用や効果等を調査し、無償化を含めた給食費の議論を行う必要

があると認識しています。

問 相生市に続いて明石市は中学校の給食費無料、また大阪市や高島市が財政調整基金を取り崩して実施しており、子育て支援と合わせて非常に重要だと思う。ふるさと納税で子育て支援している中で、無償化を前に進めるのは非常に意義のあることでは。

答 (市長) まずは教育委員会です。しっかり検討し、私としては財政的に対応できるかが問題です。一度やればやめるという選択肢はありません。ふるさと納税の見直しも予想され、今後の見通しが難しい中、一定水準の収入見込みが必要だと考えます。しかし、子供たちがいろいろなことを考えずに学ぶことができる環境の一つとして、大事な課題だと認識していますので、教育委員会とよく相談して考えたいと思います。

ダイバーシティ (多様性) と働き方改革について



佐伯 欣子 議員
(21政会・加西ともに育つ会)

問 女性活躍への取組として、女性を中心とした本音で話し合える機会を設けてはどうか。

答 職場を越えて女性が議論する場をつくる中で、普段から議論できる場を持てるようにしたいと考えます。また、職員の自主的な活動を支援する制度を活用して、女性職員が議論の場を持つようにつなげていきます。

問 ウィメンズネット加西塾の女性リーダー養成講座受講

生が、今後地域に参画しやすい状況をどのようにつくるのか。

答 養成講座の半年間の学習成果をさらに深め、動きにつなげるため、成果を発表する機会を設けます。受講生自身がやりたいこと、自分たちの思いを形にしてくれるものと期待しています。

問 障がい者の就労支援について、事業所や就労者に対する取組の現状は。

答 やりがいや生きがいを持って就労を継続し、自己実現が図られるよう、関係機関の連携強化や情報共有に取り組むとともに、就労支援専門員を配置して就労支援や就職後の職場定着を図るための相談、援助体制の充実に努めています。就労移行支援事業所を通じて一般企業へ就職した方は、令和2年度は6名です。

問 働き方改革は多様性と密接に関係している。まず自分と異なる価値観や立場の人に触れ、互いを知り認め合うことが第一歩ではないか。遠慮なく意見交換し成果を発揮できる関係づくりが必要だ。多様性と働き方の推進についての考えは。

答 (市長) 多様性が尊重される社会を進める取組の一つがウィメンズネット加西塾で、具体的な行動となって加西市が動く一つの原動力になればと思います。また、多様性は人権尊重と考えられており、障がい者団体と意見交換するなど、引き続きコミュニケーションを取って人権尊重に努めます。3月議会には男女共同参画推進計画策定と同時に、「(仮称)加西市誰もが自分らしく共に生きる社会づくり条例」を上程する予定で、さらに議論を深めていきます。